



ཏཱ་ལའི་བླ་མ་

足かけ6年、ダライ・ラマという存在に迫るドキュメンタリー

ダライ・ラマ法王14世 企画・撮影：薄井一謙 / 薄井大暹 語り：柄本佑 音楽：世武裕子 チェロ演奏：奥泉貴圭 音楽制作：内山雄介 (otoco)  
企画協力：長島慎 / 坪井卓 EED：山谷亨 仏教学監修：合田秀行 エグゼクティブプロデューサー：土屋尚士 プロデューサー：吉田裕  
監督・構成・編集：光石富士朗 特別協力：ダライ・ラマ法王日本代表部事務所 製作・配給：ブエノスフィルム ©Buenos film ©薄井大暹 Taikan Usui www.d14.jp



# 誰も知らないダライ・ラマの舞台裏

## あなたは本当のダライ・ラマを知っていますか

ダライ・ラマ法王14世、本名テンジン・ギャツォ。観音菩薩の生まれ変わりとされる僧侶。ノーベル平和賞受賞者。神々しい肩書とともに、これだけ世界中で顔を知られている人は他にはいない。しかし、私たちは本当にこの人を知っているのだろうか。2歳にしてダライ・ラマ13世の転生者と認定され、ダライ・ラマ14世となったひとりの少年は、今では多くの人から尊敬され、一方では唾棄する人もいる、この世界において重要な存在となった。本作ではその人に東京の街頭で質問を募った。質問者にまっすぐに向き合い、真剣にユーモアたっぷりに答える姿から、ダライ・ラマ14世の素顔が見えてきた。



## インド、ダラムサラとラダック— 亡命の地で生まれたもの

チベット亡命政権で暮らす子供達は、「あるもので満足しています」と口をそろえる。その表情には教育から生まれた豊かさがある。1959年、中国の侵略と弾圧によって亡命を余儀なくされたダライ・ラマ14世とチベットの人々。彼らはインドのダラムサラで山を切り拓き、亡命政権を作りあげた。翌年には教育を開始。今では子供たちは言語だけでも英語、チベット語、ヒンディー語、未来の対話の為に中国語も学ぶ。本作ではチベット文化とチベット仏教の根付いた地、インドのダラムサラとラダックの取材を敢行。そこには今の日本が失ってしまったものが確かに存在していた。

## 暴力からは何も生まれない

2008年3月、中国チベット自治区でチベット人による大規模な暴動が起きた。それを機にチベットの自由を求めるデモが世界各地で起き、北京オリンピック直前には聖火リレーの妨害など、連日のように報道されていた。その時もダライ・ラマ14世は非暴力を説いた。オリンピックの精神を尊重し絶対に妨害してはならないと。そのことを覚えている人はどれだけいるだろうか。あれから7年あまり、今も変わらずチベット問題は存在する。第二次世界大戦が終結して70年。一貫して平和を説いてきたダライ・ラマ14世は、今年80歳を迎える。混沌とした世界情勢の中、2000年後の変わらぬ未来にむけて、今日も世界中を駆け回っている。

# ダライ・ラマ14世

ダライ・ラマ法王14世 企画・撮影：薄井一議／薄井大暹 語り：柄本佑  
監督・構成・編集：光石富士朗 特別協力：ダライ・ラマ法王日本代表部事務所  
製作・配給：ブエノスフィルム  
2014年/日本/カラー/上映時間：116分 ©Buenos film ©薄井大暹 Taikan Usui [www.d14.jp](http://www.d14.jp)



All photos by Taikan USUI